

- 問1 奥行きのある湾と小さな岬が交互に連続する複雑な海岸線を持つ地域では、古くからその地形を利用した人々の暮らしが見られます。このような海岸地形の成立過程とその利用について述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2020年 香川県公立入試 類似)
1. 山地が沈水することで複雑な入江が形成されており、波の影響が少ないため、カキやワカメなどの養殖が盛んである。
 2. 波の侵食によって平坦な段差が作られており、津波の被害を避けるための集落や畑として利用されている。
 3. 川から運ばれた土砂が河口に堆積して平地が形成されており、水はけの良さを活かした都市開発が進んでいる。
 4. 沿岸流によって運ばれた砂が湾の入り口を塞ぐように堆積しており、景勝地として観光資源に活用されている。
- 問2 沿岸部に位置する徳島市などの都市部では、地震に伴う津波被害を最小限に抑えるための防災対策が進められています。浸水が想定される区域において、地形の標高や避難経路、避難場所を住民に周知するために作成される地図を何といいますか。 (2023年 兵庫県公立入試 類似)
1. ロードマップ
 2. 地形図
 3. ハザードマップ
 4. 等高線図
- 問3 都市部の気温が周辺の郊外に比べて高くなる「ヒートアイランド現象」が発生する要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 温室効果ガスの放出が増えることで、大気圏に熱が閉じ込められること
 2. 都市部で大規模な森林開発が行われ、光合成による冷却効果が失われること
 3. 季節風の通り道に高いビルが建ち、海からの湿った空気が遮断されること
 4. アスファルトやコンクリートで地表面が覆われ、人工排熱が増加すること
- 問4 大規模な噴火の後に形成される「カルデラ」と呼ばれる地形の説明として、その成り立ちを含めて正しく述べたものはどれか。 (2016年 山口県公立入試 類似)
1. 海沿いの山地が沈水し、複雑な海岸線を持つ入り江となった地形
 2. 火山灰が長期間にわたって降り積もり、水はけの悪い広大な平坦地となった台地
 3. 噴火によって地下のマグマが噴き出し、山頂部が重みに耐えきれず陥没してできた凹地
 4. 粘り気の強い溶岩が噴火口の周囲に盛り上がり、釣り鐘のような形になった山
- 問5 日本の各地で見られる気候の特色について述べた文として、和歌山県新宮市のような太平洋側の気候と、島根県出雲市のような日本海側の気候の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
1. 冬に北西の季節風の影響で雪が多く降る地域 - 1年を通じて降水量の変化が少なく安定している地域
 2. 年間を通じて降水量が極めて少なく温暖な地域 - 夏に南東の季節風の影響で降水量が集中する地域
 3. 夏と冬の気温差が激しく年間降水量が少ない地域 - 冬に乾燥した晴天の日が続く地域
 4. 夏から秋にかけて台風や梅雨の影響で降水量が非常に多い地域 - 冬に北西の季節風の影響で雪や雨の降水量が多くなる地域
- 問6 日本海側の気候において、夏と冬の気象条件の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 島根県公立入試 類似)
1. 夏は南東の季節風によって連日雨が降り、冬は乾燥した冷たい風によって晴天が続く。
 2. 夏は季節風の影響で晴天の日が多く、冬は北西の季節風によって雪や雨が多くなる。
 3. 夏はフェーン現象により猛暑となることがあるが、冬は太平洋側よりも降水量が少なくなる。
 4. 夏はオホーツク海高気圧の影響で低温となり、冬は暖流の影響で全く雪が降らない。
- 問7 北日本の太平洋側にある宮古市などの方角へ向かって、海側から吹き込む北東の風について、この風が冷たく湿っている理由と、その後の気候への影響を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2022年 岐阜県公立入試 類似)
1. 日本海を流れる対馬海流という暖流から水蒸気を補給するため、蒸し暑い気候をもたらす。
 2. シベリア高気圧から吹き出す乾燥した空気が原因であるため、曇一つない晴天をもたらす。
 3. 高い山脈を越えて吹き下りる際に圧縮されて温度が上がるため、乾燥した高温の気候をもたらす。
 4. 千島海流（親潮）という寒流の上を吹き通ることによって冷やされるため、低温や濃霧をもたらす。
- 問8 大規模な火山の噴火に備え、火口から噴出した溶岩流が到達すると予測される範囲や、到達までにかかる時間を地図上に示したものがありません。このような、自然災害による被害を予測し、円滑な避難や防災対策に役立てるために作成される地図を何といいますか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
1. 国土地理院発行の地形図
 2. 都市計画を定めた用途地域図
 3. ハザードマップ（被害予測地図）
 4. 植生の変化を示した相観図
- 問9 ある地域の地形図を確認したところ、大きな建物のすぐ背後に山があり、その斜面にあたる部分の等高線の間隔が非常に狭くなっていました。この地形図から推測される実際の風景の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)
1. 建物の周囲が等しい高さの土地に囲まれた、広い盆地のような風景
 2. 建物が山の頂上付近にある、平坦な場所に建てられている風景
 3. 建物のすぐ後ろに、険しく急な斜面がそびえ立っている風景
 4. 建物の後ろに、なだらかで緩やかな斜面が遠くまで続いている風景
- 問10 川が山地から平地に流れ出る谷口付近において、上流から運ばれてきた砂や礫（小石）が堆積して形成された扇形の地形を扇状地と呼びます。この地形の斜面において、水田よりも果樹園としての利用が一般的である理由は何ですか。 (2026年 福島県公立入試 類似)
1. 砂や礫が堆積して層を成しているため、水はけが非常に良いから
 2. 標高が非常に高く、平地よりも気温が低いから稲作に適さないから
 3. 周囲が山に囲まれており、稲の生育に必要な日照時間が不足しているから
 4. 地表付近に常に水が湧き出ており、果樹の根が腐りにくいから
- 問11 冬の時期、日本海側の地域で雪や雨による降水量が多くなる仕組みを説明した文として、正しいものはどれですか。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
1. 北東から吹く湿った風が山脈を越え、日本海側で冷やされて雨を降らせるため
 2. 小笠原気圧配置の影響により、南東からの湿った季節風が日本海側に流れ込むため
 3. 北西からの冷たい季節風が日本海を渡る際に水蒸気を含み、山脈にぶつかって上昇するため
 4. 中央の山地を越えて吹き降りる乾燥した風が、日本海側の海域で急激に冷やされるため
- 問12 日本列島の周辺を流れる海流のうち、太平洋を北上する黒潮（日本海流）から分かれ、九州の北側を通して日本海へと流れ込み、沿岸を北上する暖流の名称を次の中から選びなさい。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
1. 対馬海流
 2. 親潮（千島海流）
 3. 千島海流
 4. リマン海流
- 問13 九州地方の熊本県に位置し、火山の噴火によって形成された世界最大級の面積を持つ広大な窪地（カルデラ）を持つ活火山の名称として正しいものはどれか。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 霧島山
 2. 阿蘇山
 3. 有珠山
 4. 箱根山

答え合わせ・解説

問1	答え 1 山地が沈水することで複雑な入江が形成されており、波の影響が少ないため、カキやワカメなどの養殖が盛んである。	リアス海岸は、もともと陸地であった場所の谷の部分に水が入り込む「沈水」によって作られます。ギザギザとした複雑な海岸線は総延長が非常に長くなり、波を遮る地形が多いため、内湾では水面が安定します。この穏やかな水面と、急深な海底という条件が組み合わさることで、三陸海岸ではワカメやカキ、志摩半島では真珠といった養殖業が地域の主要な産業となっています。一方、海岸段丘は土地の隆起や海面の低下によって形成されるため、成立過程が異なります。
問2	答え 3 ハザードマップ	自然災害による被害を予測し、被害の範囲や避難場所を地図上に示したものをハザードマップ（被害予測図）と呼びます。地理的分野では、身近な地域の防災対策として頻出の用語です。単に避難所を覚えるだけでなく、自分が住む地域の浸水リスクや避難経路を事前に確認しておくことが、防災教育において重視されています。
問3	答え 4 アスファルトやコンクリートで地表面が覆われ、人工排熱が増加すること	都市化が進むと、植物による蒸散作用や土壌による吸水が失われ、熱を蓄えやすいアスファルトやコンクリートの面積が増えます。これに加えて、経済活動や生活に伴う空調・自動車などの熱が放出されることで、局地的に気温が上昇します。これが熱帯夜の増加や、特定の場所での強い雨（ゲリラ豪雨）の誘発に関係していると考えられています。
問4	答え 3 噴火によって地下のマグマが噴き出し、山頂部が重みに耐えきれず陥没してできた凹地	カルデラは、大量のマグマが噴出したことで地下に空間ができ、そこが陥没することなどで形成される大規模な凹地です。これに対し、火山灰が堆積してできたものは「シラス台地」であり、粘り気の強い溶岩による盛り上がりは「溶岩ドーム（鐘状火山）」、海岸線の沈水は「リアス海岸」の説明です。地形の名称だけでなく、どのようなプロセスで形成されたかを理解することが重要です。
問5	答え 4 夏から秋にかけて台風や梅雨の影響で降水量が非常に多い地域 - 冬に北西の季節風の影響で雪や雨の降水量が多くなる地域	太平洋側の地域（新宮市など）は、夏に南東の季節風の影響を受けるほか、梅雨や台風の影響で6月や9月ごろに降水量が突出して多くなるのが特徴です。一方、日本海側の地域（出雲市など）は、冬に水分を蓄えた北西の季節風が山地にぶつかって、12月から1月にかけて雪や雨による降水量が他の時期よりも多くなります。
問6	答え 2 夏は季節風の影響で晴天の日が多く、冬は北西の季節風によって雪や雨が多くなる。	日本海側の地域では、冬は湿った北西の季節風によって雪や雨が多くなりますが、逆に夏は太平洋側から吹き込む南東の季節風が中央の山脈を越えてくる際に水分を失うため、乾燥して晴天の日が多くなるという対照的な特徴を持っています。この季節ごとの対照的な天候は、日本の中央を走る山脈と季節風の向きによって生じます。
問7	答え 4 千島海流（親潮）という寒流の上を吹き通ることで冷やされるため、低温や濃霧をもたらす。	やませが発生する際、北東からの風は寒流である千島海流（親潮）の上を通ります。これによって空気の温度が下がり、湿気を多く含んだ状態になるため、東北地方の太平洋側に低温や濃霧、小雨といった天候をもたらします。これにより、夏の気温が十分に上がらない現象が起こります。
問8	答え 3 ハザードマップ（被害予測地図）	火山の噴火だけでなく、地震、洪水、土砂災害などの自然災害が発生した際に、被害が及ぶ範囲や程度を予測して地図化したものをハザードマップと呼びます。これには避難場所や避難経路、防災機関などの情報も記載されており、住民の迅速な避難や、行政による防災対策の策定に不可欠な資料となっています。
問9	答え 3 建物のすぐ後ろに、険しく急な斜面がそびえ立っている風景	地形図上の等高線の間隔は、その土地の傾斜の度合いを反映しています。建物の背後の山において「等高線の間隔が非常に狭い」という情報は、その場所の傾斜が急であることを示しています。したがって、実際の風景としては、建物のすぐ裏手に急峻な崖や険しい斜面が存在している状況が読み取れます。
問10	答え 1 砂や礫が堆積して層を成しているため、水はけが非常に良いから	扇状地は、川の勢いが弱まる谷口に大きな粒の砂や小石が積み重なってできています。このような地質は雨水が地下に浸透しやすく、非常に水はけが良いという特徴があります。水もちが悪い（水が溜まりにくい）ため、水を大量に必要とする水田には不向きですが、ブドウやモモなど乾燥した環境や排水の良さを好む果樹の栽培には非常に適しています。
問11	答え 3 北西からの冷たい季節風が日本海を渡る際に水蒸気を含み、山脈にぶつかって上昇するため	日本の冬は、大陸にあるシベリア高気圧から北西の季節風が吹き出します。この風が比較的暖かい日本海の上を通る際に大量の水蒸気を吸収し、本州の中央を走る山脈にぶつかって上昇気流が発生することで、雲が発達し日本海側に雪や雨をもたらします。山脈を越えた後の風は乾燥し、太平洋側に晴天をもたらします。
問12	答え 1 対馬海流	黒潮（日本海流）は、東シナ海を北上し、トカラ列島付近で二手に分かれます。その一部が九州の西側から北側を通り、日本海へと入る海流が対馬海流です。日本海を北上する唯一の暖流であり、沿岸の気候に大きな影響を与えています。
問13	答え 2 阿蘇山	熊本県に位置する阿蘇山は、日本を代表する活火山であり、その最大の特徴は世界最大級の規模を誇る「カルデラ」です。カルデラとは、火山活動によって地表が陥没してできた大きな窪地のことで、阿蘇山のカルデラ内には多くの人々が居住し、農地や鉄道も整備されているという世界的に珍しい特徴を持っています。